



# 三星の風

## 第7号

平成18年11月1日  
鹿兒島県立  
鹿屋高等学校

### 郷土を知るー一年生野外実習

十月二十七日(金)に、総合的な学習の時間である「三星タイム」の一環として、本校恒例の野外実習が行われました。一年生を対象としたこの野外実習は、全国で総合的な学習の時間が実施される以前から本校独自の学校行事として行われていました。野外実習は郷土の歴史・地理や自然に直接触れることによつて、郷土への関心を深め、観察・実習したことを自分でまとめいく態度や能力を養うことを目的としています。今回の実習のために計七十ページにおよぶ本校職員による独自の野外実習のしおりを作成し、しおりに基づいて入念な事前学習も「三星タイム」で実施してきました。

当日は、秋晴れのすがすがしい天気の中、本校西駐車場に集合した一年生は、クラスごととにバスに分乗し、一組から四組までの北回り班と五組から八組までの南回り班の大きく2つのグループに分かれて見学しました。北回り班を例にコース説明をしますと、鹿屋高校を出発し、笠野原台地の畑作地帯を通りながら、車内でシラス台地と闘った住民の歴史を学びました。飲み水や灌漑など水と



の関わりの証の一つとして、最初の見学場所は、旧串良町所在の県指定文化財「土持堀の深井戸」でした。深さ六十メートル以上の掘削を行って井戸水を確保した話や水のくみ上げに人力だけでなく牛の力も利用した話を生徒は興味深げに聞き入っていました。その後、平和公園を通過し、東

串良町の唐仁古墳群に向かいました。西都原古墳群に次ぐ、南九州有数の古墳群である唐仁古墳では、実際に最大の前方後円墳の第一号墳に登り、その規模から、当時の志布志湾岸を支配していた古墳時代の大隅のリーダーの技術力・経済力を実感しました。同様に近隣に所在する肝付町の塚崎古墳群や歴史民俗資料館を見学し、実際の遺物・資料に接し、日常の学校の授業では味わえない経験ができました。石油備蓄基地を眼前に臨む柏原海岸で、逆ルートで見学していた南回り班と合流し、昼食をとった後、午後は中世に肝付氏の居城であった高山城へ向かいました。生徒は、大阪城や名古屋城などのような白亜の天守閣のある城を想像していたらしく、木の生い茂った森の一角を高山城と説明を受けびっくりにしていました。城を登っていくにしたがって



実際の民俗資料に触れて郷土の歴史を実感!

自然の山ではなく、人工の堅固な要害であったことを実見できたようでした。最後に肝付町の嶽橋採石場で、砂岩と頁岩の互層の雄大な露頭を観察しました。堆積岩でありながら一つも化石が見つかからないことから、この付近がかつて海底であったことを説明されると、自然の刻む悠久の営みに感慨深げでした。わずか一日ではありましたが、学校周辺が本当に豊かな自然・文化に囲まれた環境であることが分かった意義深い野外実習だったのでないでしょうか。



### 学年PTA・進路講演会

十月二十日(金)一年・二年学年PTAが開催され、その後生徒・保護者を前に、足立大樹氏による「希望進路の実現に向けて」という演題での講演会がありました。

一年PTAでは、生徒の成績結果と携帯利用時間との相関関係についての学年主任の興味深い分析がなされました。二年PTAでは、目前に迫った修学旅行についての注意や学校生活についての現状報告等がなされました。

進路講演会では、自分の失敗例をあげながら、具体的に勉強の仕方についてわかりやすい話がありました。特に知識を「憶える」より「使う(考える)」力が必要であり、基本は何より学校だ、ということを強調されました。

生徒・保護者にとって、一つでも参考になることがあり、今後の生活に生かされればと願ってやみません。進路講演会の後、学級PTAが続いて行われました。

### センター出願式



大学入試センター試験の出願が十月二日から始まりました。本校の三年生は、三百十三名が出願しました。これは、過去十年の中で最も高い出願率です。センター試験まで残り一〇六日となった十月六日の総合的な学習の時間に、大学入試センター試験へ向けて出願式を行い、達磨の目に墨を入れて、進学・就職全ての合格を祈願しました。まず、進路指導部から達磨の起源についての説明の後、各クラスの代表が全員の合格を祈願しながら達磨の左目に墨を入れました。次に、男女一名ずつ今後の学習について決意表明を行いました。その後、二名の先生から自らの体験を踏まえた生徒へ向けた激励がありました。学年主任の先生から今後の学習に向けての注意の後、最後は、体育祭の応援団長と先生方の掛け声に合わせて、学年スローガンである「負けるな勝て 勢」と気合を入れなおして締めくくりました。その後、三年生の担任・副担任の先生方を中心に達磨のもう片方の目に墨を入れて全員の進路目標の達成を祈願しました。現在、達磨は進路指導室で三年生の努力を見守っています

### 美化コンクール

十月二日(月)～六日(金)の五日間、美化コンクールが実施されました。これは、生徒の健康、安全、良質な教育環境の確保と維持を目指すことを目的として行われるものです。ごみの処理、教室や廊下の整理具合、掲示物等十項目を採点項目としています。厚生委員が審査する中で今回三位までに二年生の



二クラスが選ばれました。このような取組とおして、各自で身の回りの整理・整頓に努めるきっかけになればと思います。

### 二年生奉仕作業

十月十二日(木)中間考査が終了し、テスト疲れの中、二年生による奉仕作業が行われました。

お昼過ぎから気温が上がり少し汗ばむ中、本校を中心にして市役所前・朝日町・寿方面と手分けしてごみ拾いや除草作業をおこないました。場所によっては、市民の方から感謝の言葉もいただき、心地よい汗をかけた活動になりました。



学校周辺がきれいになりました。

### 集団読書 秋の静かな時間を

十月十三日(金)全クラスで「校内一斉読書」が実施されました。村上龍「ポストマン」とフランク・パヴロフ「茶色の朝」を放送部が文字で言い表せない著者の『想い』を校内放送で伝えてくれました。

※「ポストマン」の感想(二年女子)  
戦争による悲しみ、事故による悲しみ、大切な人を想う気持ち、ポストマンはとても大事にたくさんの手紙、人々の様々な想いを持っていました。とても重たいと思います。人は、人から人へと様々な想いを伝えながら生きていくのだと思いました。

※「茶色の朝」の感想(二年女子)  
法の大きさ、それ故の罪つてあるんだと思いました。人間は何かある時自分を正当化するために、法や規則、約束を口にします。そしてそれに許されていることに安堵するのですが、その法は他人から与えられたものであつて、それに従うことに安堵した主人公は、注意を怠りすぎたと感じました。忙しくあつても面倒臭くても動かない者にはそれを嘆くいわれはありません。

※集団読書についての感想  
視覚と聴覚からなる一斉読書は、本の世界に入りやすく、読み手から与えられるその本独特の雰囲気膨張して感動として残っていくとともに、クラスや学校のみなが共有しあえる場として貴重な体験だと思えます。これからも続けて欲しい。

### 秋季大会報告

- ・書道部ー第43回南日本硬筆展奨励賞
- ・水泳部ー県新人大会女子50mバタフライ第2位、同男子200m背泳ぎ第2位、同男子200mメドレーリレー第3位

### 写真からみた鹿屋高校「今・昔」 —修学旅行—



昭和30年  
(関東方面へ)



平成10年  
(東南アジア方面へ)

※今年の2年生(60期生)の修学旅行の行き先も東南アジア方面になります。

### 11月の主な行事

- 1日(水)～6日(月) 「地域が育む県民週間」
- 2日(木)先輩による三星塾
- 7日(火)～11日(土) 2年生修学旅行
- 10日(金) 3年生リラクゼーション
- 16日(木)芸術鑑賞会
- 17日(金)3年PTA
- 22日(水)公開授業
- 24日(金)英語公開授業

- ・バドミントン部ー地区秋季大会1年女子シングルス個人第1位、同女子団体1位、同共通男子シングルス第1位、同男子シングルス第1位、同1年男子ダブルス第3位
  - ・柔道部ー地区秋季大会個人60kg級1位
  - ・ソフトテニス部ー地区新人大会男子第1位
  - ・陸上部ー県新人大会男子走り高跳び第3位
  - ・ボート部ー県新人大会男子ダブルスカル第1位、同男子シングルスカル第3位、同女子ダブルスカル第1位、同女子シングルスカル第1位・第2位
- 毎月発行するこの「三星の風」は、鹿屋高校のホームページにも掲載されています。  
<http://www.12.synapse.ne.jp/kanoyakoukou/>